

を送り給いける。

昔もさるためしあり、源頼光御逝去の後、御子頼親逆心を企て数度、合戦に打ち負け流人成されけるとかや。この人々も末はいかがと口ずさみけり。誠に替わり易きは浮世なり、若君の御果報の程、危うかりける次第なり。

愛季殿、湊の城へ御移りの事

しかるほどに、安藤城之助愛季殿は、実季公御他界の後、三七日の御弔いも過ぎければ、御遺言に任せ吉日を極め、頃は永祿二辰七月末に湊の城に御移り、国の成敗は先例に任せける。此の愛季殿と申すは諸国にかくれなき筆道の名人なり。

御家の執権に石岡主典清氏・松田兵部之助光友・加賀民部太夫・小野寺権右衛門尉正時、かくて四人の人々は、君を敬い民を撫で、君より国の成敗承り、湊にこそはおわします。助殿の御果報申すばかりはなかりけり。

かくて月日を送り給えば、御威勢誠に堯舜の御代と申すも、是にはいかで増さるべし、と敬ざるはなかりける。

しかるに年号替り、元亀元庚午年、御郡内、諸寺院諸社の寺領社領、先例の通りに成さるべき由、

仰せ出されければ、皆々悦ぶ事限りなし。

あるとき、愛季殿、鶴形円通山広大寺正観音、恵心僧都の御作なり、観音の別当、東光坊を召され祝願の旨候間、御堂建立成さるべく候。則ち大高相模守・石岡主典兩人に仰せ付けられ候えば、畏みてやがて奉行・大工の者共に仰せ付けられ御普請成されける。頃は庚午の九月より未の二月までに御堂造立の普請も極まりければ、元亀二辛未三月五日吉日にて別当権少僧都導師にて遷供供養、大守愛季公、社参遊ばされ、国家安全、武運長久の御祈念なし給う。

これはさておき、男鹿・赤神山、そのほか所々の諸社諸寺院、零落の宮々、御修造成され給いければ、誠に諸天諸仏も感応の術も疑いなく御武運長久めでたけれ。この殿の御威勢、上下万民敬わざるはなかりける。

浦の城代、兵庫守が事

ここに秋田郡、浦と申す所、城代をば三浦兵庫守盛長と申しける。

先祖委しく尋ぬるに、関東鎌倉落城の砌、甲斐国より当国に御下着なされける。則ち三浦朝臣近江守盛実の末孫なり。この盛長、武田の人なればとて実季公御代に浦の城に三百町を給わりける。しかるに御世継ぎ御子なかりければ、あるとき、観音へ御立願なされ御子一人もうけ給う。御名を